

## 平成 21 年度 環境安全技術系講習会

今年度の当技術系の講習会は以下のように、開催した。

日 時：平成 21 年 9 月 11 日（金）16 時～17 時

場 所：工学研究科技術部会議室（7 号館 B 棟 3 階 313 号室）

演 題：工学部・工学研究科の災害分析について

講 師：岡田 嘉寿雄（環境技術班班長）

参加者：自系技術職員 12 名、他系技術職員 2 名（内 1 名室長）本研究科放射線系教授 1 名、  
本学環境安全衛生管理室員 2 名、本学環境安全支援課 1 名

### 目的

当技術の技術職員は、大半の者が労働安全衛生法や消防法、高圧ガス取締法また放射線障害防止法、建築基準法、環境基本法などに係る資格を有し日常の仕事を遂行している。このため、身近な場所で発生した災害の傾向を把握し、その発生を減少させることはきわめて重要である。特に今回の講習会では、過去 31 年間までさかのぼり発生した災害及び国立大学の法人化以降に発生した災害を比較分析しているため、これらのことを当技術系の技術職員に知ってもらい意識の向上を図るとともに、当日参加された環境・安全衛生関係者の方々に情報を提供する目的で実施した。

なお目的として、プレゼンテーション技術及び聴講・質問に対するレベルアップも兼ねていることは言うまでもない。

### 内容

災害報告書のデータに基づき「工学研究科における災害発生状況」、「法人化前後の傾向」、「法人化以後の災害の特徴」、「まとめ」で構成し、計 30 枚程度の図表を使って講習を進めた。

工学研究科における災害発生状況については、過去 31 年間の災害発生の傾向を知るため、1978 年度から昨年度にいたるまでの災害を災害の重篤別に分類して示した。法人化前後の傾向については、1999 年度から 2008 年度までの 10 年間に発生した災害の発生件数を研究分野（専攻）別、職層別、要因別、月・曜日・時間帯別に分類して示した。特に法人化以後の災害の特徴については一部提言も含めて触れた。まとめについては、日本における労働災害死亡者数の推移を示し、本校及び本研究科の現在の安全衛生に対する姿勢や取り組みに対して、新たに安全の事前確認（危険予知：KYT）やヒヤリハットの取り入れを提言し、リスクアセスメントの導入についても継続すべき課題として触れた。また災害の事例については、特に全学技術センターや当研究科技術部・技術系、本研究科の安全衛生関連部署などでも独自に分野・系・事故の背景等別に整理し、それを活用することの意義（身近なところで個々人の災害への感受性を高める）などについても強調した。

当日の講習会では、本学全体で発生した災害分類との共通性や全国的に共通したデータの分析方法、また特定の研究分野に対する構成人数別の災害発生割合などについて質問や意見・指摘などがあった。本講習会は全体的に観て参加者からの質問・意見も多く、またそれに対する受け答えも真摯的で目的をほぼ達成したと考えられる。反省としては、質問や討論の時間がやや短かった点、また他技術系からの参加者が少なかった点である。